

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students

Mont Saint-Michel



プロフィール (Profile)

氏名	H.A
所属	現代システム科学域 環境システム学類
学年	3 年
留学先	CY セルジー・パリ大学
留学期間	2022/9/5~2023/1/30

留学レポート Study Abroad Report

みなさん、こんにちは。私は 2022 年 9 月から 2023 年 1 月の約 5 か月、フランスのセルジー・パリ大学に交換留学しました。

私は高校生の時にアメリカに 10 日ほど語学研修に行きましたが、思うように自分から行動できず、後悔したため、大学に入学してからもう一度留学したいと考えていました。一般的に日本社会で求められることが多い英語力を伸ばすために、英語圏への留学も考えましたが、留学先としてフランスを選択したのは、第二外国語として選んだフランス語を学習していく中でフランスに対する興味が大きくなっていったことと、大学から新たに始めたことで何か成果を出したいと思ったからです。

この留学レポートでは実際に 5 か月間の留学を経験して感じたことをお伝えし、少しでも留学を考えている人や迷っている人の参考になったと思います。

「大学生活について」

私はセルジー・パリ大学の日本語・英語学科に所属しました。今年度の日本人の留学生は私を含め、10 人で、授業開始 1 週間前頃にオリエンテーションが行われ、そこで初めて顔合わせをしました。授業は講義形式の CM と呼ばれるものと、グループワークなど実践的な授業を行う TD の 2 種類があり、1~3 年生の授業から自由に選択できました。

私は、1~3 年生の授業をまんべんなく取り、TD を 6 コマ、CM を 1 コマ、それに加えて語学学校の授業を週に 5 時間受けていました。TD の授業は日本語の文法をフランス語で学ぶ授業を主に取り、日本語・英語学科に通っているフランス人の学生と一緒に授業を受け、ペアワークをしたり、練習問題の添削をし合ったりしました。日本の歴史や地理などの授業もありましたが、専門的なフランス語の単語を学ぶよりも日常的によく使用する表現を学びたいと思ったので、それらは取りませんでした。3 年生の英語の授業も取りましたが、文章を読んで、要約し、分析するといくかなりレベルの高い内容で、ついていくことが難しかったです。

語学学校は、大学で留学生向けに開講されているフランス語の授業で、初日に受けた試験によってレベルが分けられました。

私は A2 のグループ 2 で、文法や表現、リスニング、コミュニケーションと幅広い内容を学びました。私の筆記のレベルは A2 に達していたと思いますが、会話の方が周りの学生と比較してかなり劣っていたため、授業中に何をやるのか、何を尋ねられているのか、言いたいことをどのようにフランス語で言えばよいのか分からず、毎週の授業がしんどかったです。他の日本人の学生も同じ状況で、講師からの対応も幾分冷ややかな時がありました。文法を知識として知っていたとしても、話せないと授業についていくのは難しく、会話力が自分の大きな課題なのだと嫌と言うほど実感しました。



授業の集合写真

授業が午前と午後にまたがってある曜日には学食を利用しました。ありがたいことに奨学金を頂いていたため、1ユーロで食べることができましたが、食堂はあまり広くないため、正午には長蛇の列がいつもできており、食べるまでに40分以上並ぶこともありました。

「寮生活について」

私はもともとホームステイを希望していましたが、なかなか決まらなかったため、ギリギリになって寮に変更しました。渡航2週間前に急いで寮の申請をし始めましたが、寮からの返答が遅いこともあり、結局正式な寮の手続きが完了しないまま渡航することになりました。手続等の申請は早めに完了させておくことをお勧めします。

フランスに着いて2日目に実際に寮の受付に行き、入寮させて欲しいと頼み込みましたが、visaleと呼ばれる登録がされていないということで、門前払いされました。visaleが必要であること、visaleを取得するのに1か月程度かかること全く知らず、いつ入寮できるのかも分からず途方にくれました。住む場所がないこの時は正直日本に帰りたくなっていました。

後日交渉しに行った際、福岡の大学から留学しに来た学生と偶然会い、ありがたいことに寮の部屋を貸してもらえることになりました。彼女には感謝しかありません。大学の国際交流部門の方にも助けていただき、visaleの登録を無事終え、渡航日から1週間後に入寮できました。

寮は大学から徒歩で10分ほどのところにあり、部屋にはキッチンと冷蔵庫、トイレ、シャワー、ベッド、ダンス、机と椅子など最低限生活に必要なものが予め備え付けられていました。完全に個室だったため、隣に住んでいる学生と関わることもほとんどありませんでした。寮の敷地内にはいくつか棟がありましたが、共同の洗濯機と乾燥機はメインの棟にしかなかったため、一度洗濯物を持って外に出る必要があったのは少し不便でした。部屋にはセントラルヒーティングがありますが、11月になるまでつけることができない上、つけてもあまり暖かくなりず、常に寒かったです。また、他の棟の工事が行われているため、工事音が気になることや、電子ロックの電池が切れ、ドアが開かないこと、メンテナンスのためにお湯が3日出ないこと、電気が使えないこともありました。



食堂で食べたお昼ご飯

ベルサイユ宮殿庭園



「休暇の過ごし方」

午後から授業がない日や土日によく友人とパリに出かけていました。フランスの代表的な観光地であるエッフェル塔や凱旋門、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館などいろいろな所を訪れました。日本とは全く異なるパリの街並みは非常に印象的でした。初めてパリを観光し、エッフェル塔を見た時と、授業で取り上げられてからずっと行きたかったベルサイユ宮殿を見た時の感動は忘れられません。

10月末から11月1週目にある秋休みにはハロウィンの起源地であるアイルランドを訪れました。アイルランドはEU圏内ですが、北アイルランドはEU圏外でユーロが使えないことや、プラグが異なることは現地に行ってから気が付きました。

一人旅にも挑戦しました。日本でさえ一

人で旅行したことがなく、交通手段、レストラン、行く場所、ホテルを全て自分で調べるということを初めてしたため大変でした。最初はTGVで2時間ほどで行けるナンシー、ルーアンに行き、慣れてきてからベルギー、ロンドンに行きました。ナンシーに行った際、アイホンの充電器のプラグを忘れたため充電ができず、モバイルバッテリーで乗り切りました。

実際に旅行に行くことで今まで気づくことができなかったことを発見でき、また、新たな価値観も見つけることができたと思います。

約5か月間の留学生活は、楽しいこともあったし、日本ではできない非常に貴重な経験ができましたが、総じてしんどい日々でした。語学力は留学前に立てた目標に到達させることができていないと感じており、伸び悩みました。渡航早々、直面した入寮問題や当たりの強いフランス人、体調不良…。様々なことが重なりストレスも感じた日々でしたが、留学したことに後悔はなく、留学してよかったと心から思っています。

最後に、今年度中に取りきらなければいけなかった授業を遠隔で対応してくださった学類の先生方、渡航前、留学中とサポートしてくださった国際交流課の皆さん、私の留学を応援し、支援してくれた家族、現地で一緒に留学を乗り越えた友人、関わってくださった全ての方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

長くなりましたが、留学を考えている人、迷っている方々の参考に少しでもなれば幸いです。